



図書委員の話。

基本CG10枚

差分34枚

400円

dd

図書委員の話。

図書室にいつも来る人がいます、。
その人が来るのを、私は楽しみにしています、。



「よう。今日も図書委員の仕事か。」

ドキ

「あ、先輩、……今日は……。」

ドキ

私に知らない世界を教えてください先輩……。



「それじゃあ今日もお勉強をしようか。」

ドキ

「お、お勉強、って何のですか、？」

ドキ



「とぼけるなよ、わかってるんだろ？」

「あ、先輩、だめです、
こんなところで、」

ドキ

ドキ

チュ♡

チュ♡

チュ♡

「何言ってるんだ。前もここで同じことやったじゃないか。」

「あん、せ、先輩、♡」

「へへ、相変わらずでかい胸してやがるな。」

ドキ

ドキ

チュ♡

先輩は私の胸を揉みしだき、キスをしてきました、……。誰か来るかもしれないこんなところで、……。

ムニョ

「ん、ん、んっ♡♡だ、だめ、
先輩、人、人が来ちゃう♡」

ドキ

ドキ

チュ♡

チュ♡

チュ

私の言葉など完全に無視して、先輩は私の体を
貪り続ける。



ん♡

あ♡

「へへ、相変わらずいい尻して
やがんな。」

「あ、せ、先輩、そんなに触らないで。」

私の制止など意に介さず、先輩は私の
お尻をもみ続ける。

ムギュー

ムギュー



ん♡

あ♡

「ん、んっ♡♡」

「おいおいどうした？何か濡れて
来てるぞ。そんなに欲しかったのか？」

「ぞ、そんなこと♡♡♡」

グチャッ♡

ムギュー

ムギュー



「何を言っても言い訳にしか
ならねえな。こんなに濡れて、
汁まで溢れてるじゃないか。」

「ん、んっ……♡♡」

ビュッ

ビュッ



「おいおい何だこれは？もう
ぐちよぐちよになってるじゃないか。」

「んっ……♡♡せ、先輩、♡♡」

「んっ……」

「んっ……」

「んっ……」

先輩は私の下着の上から私のアソコを触る続ける……。

「んっ……」

「全く触ってるだけでどんどん溢れて
きてるじゃないか。そんなに欲しかったのか？」

「んんっ♡♡ち、違、そんなことありません。」

クリ
42

クリ
42

ハ
ア
ワ

ハ
ハ

「正直に言えよ。じゃないとこ」で止めるぞ。」

クリ
42

「おいおい、指だけでイッちまったのか？全く発情しやがって。」

ビィ
ビィ

ブィ
ブィ

「あっ、ああっ♡♡んああっ♡♡」
ビィ
ビィ

「ああ、お前のこころ、すごい濡れてるな。へへ、美味いぜ。お前のこころ。」

ブル

ブル

「だ、だめ、先輩、そんなところ舐めないで、恥ずかしい。」

ハッ

421/10

ハッ

私の言うことなど無視して、先輩は私のあそこを舐め続けた。でも、私のアソコから体液が止まることはない。

ブル

ブル

ハッ

4210

ハッ



「せ、先輩、お願いします、先輩のものも啜えさせてください」

ブル

ブル

ハッ

421/10

ハッ

長いこと舐められ続けた私は、先輩のものが欲しくてほしくてたまらなくなっていた。



「んっ♡んっ♡先輩、♡♡先輩の、♡♡」

ふっ♡

ジュポッ

ジュポ

ふ♡

先輩のズボンをおろすと、私はすぐに先輩のものを咥え込んだ。



「おいおい、そんなに俺のが欲しかったのか？」

ふっ♡

ジューポッ

ジューポッ

ふ♡

「んむっ♡んぐっ♡は、はい♡♡♡これが
欲しかったんです♡♡」



フルフル

「んおおおつ♡♡♡んぐつ♡♡」

「ふー。どうだ？俺の汁は。欲しかったんだろ？」

「ふー、ふー、♡♡♡は、はい、♡♡♡
これが欲しかったんです♡♡♡」

フー♡

フー♡

フー♡



「あ、先輩、♡♡先輩が入ってます♡♡♡♡♡」

ハ♡
「どうだ？俺のは気持ちいいか？」

「は、はい♡♡前の時よりももっと♡♡も、もっと突いてください♡♡♡♡」

「よしわかった。この間よりもっと気持ちよくしてやるよ。」

ギシッ
ギシッ
ガッ
ガッ

ガッ♡

ガッ♡

がッ

がッ

ハ♡

あ♡

「あっ♡んあっ♡だ、だめ、♡♡先輩、♡♡
そ、そんなに激しくされたら、♡♡」

「何言ってるんだ。お前が望んだことだろう。」

「そ、そうだけど、こ、こんなのす、すごい♡♡♡
あっ♡あっ♡ああああ♡♡」

先輩は私を本棚に押し付け、私の中に思い切り
突き入れてきた。

ギィーッ
742♡

742♡

742♡



「あっ♡あっ♡んああっ♡♡♡
はあああああ♡♡♡」

ビーン

ビーン

ビーン

ビーン

ブルル

ドクッ
ドクッ

ハア

ハア

「はあ、はあ、せ、先輩、すごかったです、♡♡
この間より、♡♡」

「そうか、それはよかったな。でも俺はまだ満足
してないんだよな。」

「え、？」

そして、そのまま先輩に押し倒されて、……。

ドゾ♡
ドゾ♡

「あっ♡んあっ♡
せ、先輩、もうだめ、♡」

「悪いな。俺はまだ満足して
ないんだよ。いいから
黙ってやらせろ！」

「あん、♡は、はい、♡わかり
ました。せ、先輩、がしたい
なら、♡」

先輩は私を床に押し倒すと、
そのままめづめづと私のあそこに
腰を打ち付け続けました♡
パン♡



「あつ♡んあつ♡ああ♡ん♡♡♡
ああ♡ん♡♡♡」

「ああー気持ちいい。
いくぞ、いくぞ!!!」

射精しそうなのか、先輩の
腰の動きが激しくなってきました。

「は、はい。来てください♡♡♡
♡♡♡」



「あっ♡あっ♡
あああああっ♡♡」

「おっ、おおおお!!」

先輩は喘ぎ声とともに、
私の中に大量の白い体液を
射精した。

ビュッ

ビュッ

ドクッ

アビュッ
ビュルッ



「はー、♡♡はー、♡♡
先輩、♡♡」

これでようやく終わり、
そう思っていました、私の
考えは甘かったです。



7/42

「あん先輩♡♡」

74

100%

女



パン

フュ

フュ

フッ

パン

「あつ♡せ、
先輩♡♡♡」
まだ射精が近いの
だろうか。先輩の
動きが激しくなっ
てきまじた。

「うぐっ！い、
いく！」

ん♡

お♡



ドクッ

ブルッ

ブルッ

ブルッ

ブルッ

「あっ♡
んあああ♡♡♡」

「おっ、おっ、
おおおおお!!」

「はあ、はあ、さ、
最高だったぞ、
お前の中」

「はあ、はあ、♡♡
あ、ありがとう
ございます♡」

先輩は今までで
一番私の奥底に
大量の体液を
注ぎ込みました、

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ



「あ、先輩、♡♡♡」

ドキ

ドキ

ドサッ

今日もまた先輩がやってきた、♡♡♡。当然、私を犯すために♡♡♡。

ム4♡



ドキ

ドキ

「はい、来てください、
今、人がいますけど、先輩と繋がってるところ、
見せちゃいましょうか？クス。」



今日も私は先輩に犯された。人に見られたかどうかは、わからないけど、♡♡♡♡♡



この度は当作品をご購入くださり、ありがとうございます。

図書委員の話です。背景に図書室っぽい雰囲気を出しましたが、背景があった方がないよりも雰囲気が出るような気がします。今後之余裕があれば取り入れたいところです。

s

※当サークルの全作品の無断転載（購入されていない方が閲覧できるようにする等の行為）はご遠慮願います。ご協力の程、よろしくお願いします。